

皆様、おはようございます。

10月も半ばに至りました。朝晩は冷え込みます。どうぞ皆様体調にお気を付けください。

ヨハネの黙示録も9章に入りました。7人の天使のラッパのうち、4人のラッパは吹き鳴らされました。その出来事が8章に記してありました。

7 第一の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、血のまじった雹と火とがあらわれて、地上に降ってきた。そして、地の三分の一が焼け、木の三分の一が焼け、また、すべての青草も焼けてしまった。

8 第二の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、火の燃えさかっている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして、海の三分の一は血となり、

9 海の中の造られた生き物の三分の一は死に、舟の三分の一がこわされてしまった。

10 第三の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、たいまつのように燃えている大きな星が、空から落ちてきた。そしてそれは、川の三分の一とその水源との上に落ちた。

11 この星の名は「苦よもぎ」と言い、水の三分の一が「苦よもぎ」のように苦くなった。水が苦くなったので、そのために多くの人々が死んだ。

12 第四の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれて、これらのものの三分の一は暗くなり、昼の三分の一は明るなくなり、夜も同じようになった。

神様が美しく素晴らしくお造りになられましたこの世界が崩れ去っていきます。血が、海が、木が青草が苦しみ、水が汚染されます。人は命を落とします。天変地異が起こり、太陽も月も星もその明るさを失います。

そしてまだ3つの災いが待っています。ハゲタカが食い尽くすものを求めて、なお災いが起こると不気味に告げます。

そして5番目のラッパが吹き鳴らされます。

9:1 第五の御使が、ラッパを吹き鳴らした。するとわたしは、一つの星が天から地に落ちて来るのを見た。この星に、底知れぬ所の穴を開くかぎが与えられた。

一つの星が天から地に落ちます。神様はこの星に、底知れぬところの穴を開く鍵を与えられました。

この「底知れぬところ」といいますと、ルカ8章が思い出されます。ゲラサの地でレギオンという、大勢の悪霊に入り込まれた男性を主イエスが癒された時、悪霊は言いました。

8:31 悪霊どもは、底知れぬ所に落ちて行くことを自分たちにお命じにならぬようにと、イエスに願いつづけた。

底知れぬところは悪霊たちの住みかでした。

今、第5のラッパと共に、その底知れぬところに至る門が開かれるのです。墓が開いて死体が見えるどころの騒ぎではありません。悪霊の住みかである、閉じ込められていた忌むべき者たちの住む所の門が開かれるのです。何と恐ろしい出来事なのでしょう。

9:2 そして、この底知れぬ所の穴が開かれた。すると、その穴から煙が大きな炉の煙のように立ちのぼり、その穴の煙で、太陽も空気も暗くなった。

9:3 その煙の中から、いなごが地上に出てきたが、地のさそりが持っているような力が、彼らに与えられた。

その穴からはもうもうと炉の煙のようなものが立ち上り、たちまち周りを真っ暗にしました。周りが見えなくなったようなその空間に、おびただしい数の昆虫の羽音が聞こえます。いなごです。

出エジプト記10章にも、かたくななエジプトの王パロを懲らしめるために主はいなごを送られました。

10:12 主はモーセに言われた、「あなたの手をエジプトの地の上にさし伸べて、エジプトの地にいなごをのぼらせ、地のすべての青物、すなわち、雹が打ち残したものを、ことごとく食べさせなさい」。

10:13 そこでモーセはエジプトの地の上に、つえをさし伸べたので、主は終日、終夜、東風を地に吹かせられた。朝となって、東風は、いなごを運んできた。

10:14 いなごはエジプト全国にのぞみ、エジプトの全領土にとどまり、その数のはなはだ多く、このようないなごは前にもなく、また後にもないであろう。

10:15 いなごは地の全面をおおったので、地は暗くなった。そして地のすべての青物と、雹の打ち残した木の実を、ことごとく食べたので、エジプト全国にわたって、木にも畑の青物にも、緑の物としては何も残らなかった。

しかしここで出て来るいなごは、普通のいなごではありませんでした。

3 その煙の中から、いなごが地上に出てきたが、地のさそりが持っているような力が、彼らに与えられた。

4 彼らは、地の草やすべての青草、またすべての木をそこなってはならないが、額に神の印がない人たちには害を加えてもよいと、言い渡された。

このいなごは地の草やすべての青草、またすべての木を損なわず、人に対して、額の神の印を持たない人に対して害を加えるのです。

5 彼らは、人間を殺すことはしないで、五か月のあいだ苦しめることだけが許された。彼らの与える苦痛は、人がさそりにさされる時のような苦痛であった。

6 その時には、人々は死を求めても与えられず、死にたいと願っても、死は逃げて行くのである。

そしてさそりのとげによって刺された者が激しい痛みによって苦しむように、実に5か月にもその苦痛は及んで残り続けるとあります。しかし5か月とは言えども、この5か月とは、限られたひと時の間を意味します。

7 これらのいなごは、出陣の用意のととのえられた馬によく似ており、その頭には金の冠のようなものをつけ、その顔は人間の顔のようであり、

8 また、そのかみの毛は女のかみのようであり、その歯はししの歯のようであった。

9 また、鉄の胸当のような胸当をつけており、その羽の音は、馬に引かれて戦場に急ぐ多くの戦車の響きのようであった。

10 その上、さそりのような尾と針とを持っている。その尾には、五か月のあいだ人間をそこなう力がある。

11 彼らは、底知れぬ所の使を王にいたっていており、その名をヘブル語でアバドンと言い、ギリシヤ語ではアポロンと言う。

12 第一のわざわいは、過ぎ去った。見よ、この後、なお二つのわざわいが来る。

いなごの顔をじっと見ますと、馬のように見えることもあるかもしれませんが、ここでのいなごは、私たちが見慣れたいなごとは異なり、出陣の用意の整えられた軍馬に似ていて、金の冠を付けた人の顔のようなものが見え、長い触覚よろしく長い髪を持ち、ライオンの歯のように他を圧倒する力を持ったような口をもって人に襲いかかるのです。これが底知れぬところに住むいなごの存在です。

さそりのような尾。毒のあるさそりは蛇と並んで悪魔的なものと象徴されます。このいなごは底知れぬところの使を王として頂いています。その名はアバドンまたはアポロン、または破壊者。王のもとに統率の取れた軍隊のようにして、底知れ無所から来た軍勢は猛威を広げます。そして人を5か月にも及んで苛ませます。

13 第六の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、一つの声が、神のみまえにある金の祭壇の四つの角から出て、

14 ラッパを持っている第六の御使にこう呼びかけるのを、わたしは聞いた。「大ユウフラテ

川のほとりにつながれている四人の御使を、解いてやれ」。

そしてついに第6のラッパが吹き鳴らされます。

すると一つの声が、神のみまえにある金の祭壇の四つの角から出て、

「大ユウフラテ川のほとりにつながれている四人の御使を、解いてやれ」との声がします。

金の祭壇には聖徒の祈りがささげられるとありました。

その祈りは時にこのようなものでした。

6:10 彼らは大声で叫んで言った、「聖なる、まことなる主よ。いつまであなたは、さばくことをなさらず、また地に住む者に対して、わたしたちの血の報復をなさらないのですか」。

6:11 すると、彼らのひとりびとりに白い衣が与えられ、それから、「彼らと同じく殺されようとする僕仲間や兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように」と言い渡された。

8:2 それからわたしは、神のみまえに立っている七人の御使を見た。そして、七つのラッパが彼らに与えられた。

8:3 また、別の御使が出てきて、金の香炉を手を持って祭壇の前に立った。たくさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇の上にささげるためのものであった。

8:4 香の煙は、御使の手から、聖徒たちの祈と共に神のみまえに立ちのぼった。

8:5 御使はその香炉をとり、これに祭壇の火を満たして、地に投げつけた。すると、多くの雷鳴と、もろもろの声と、いなずまと、地震とが起った。

ついにと気がやってきますと、聖徒たちの血の贖いのために裁きが到来します。

川のほとりにつながれている四人の御使いが解かれる時、この世界はどうなるのでしょうか。

15 すると、その時、その日、その月、その年に備えておかれた四人の御使が、人間の三分の一を殺すために、解き放たれた。

16 騎兵隊の数は二億であった。わたしはその数を聞いた。

その時、その日、その月、その年は定められています。「いつまでですか」との叫びに対して、主はその時、その日、その月、その年を定めておられます。

裁きの時は到来し、人のうちの三分の一が命を落とします。

騎兵隊の数は2億。それは実にその当時の世界の人口の全体に並ぶ数でした。

17 そして、まぼろしの中で、それらの馬とそれに乗っている者たちとを見ると、乗っている者たちは、火の色と青玉色と硫黄の色の胸当てをつけていた。そして、それらの馬の頭はししの頭のものであって、その口から火と煙と硫黄とが、出ていた。

18 この三つの災害、すなわち、彼らの口から出て来る火と煙と硫黄とによって、人間の三分の一は殺されてしまった。

騎兵の力もさることながら、その騎兵の乗る馬もまた力強く、「それらの馬の頭はししの頭のものであって、その口から火と煙と硫黄とが、出ていた」とあります。火山が煙を吹いて火と硫黄をまき散らすように、この馬もまたその口からの激しい火と煙と硫黄とによって、人間の三分の一は殺されてしまいます。

19 馬の力はその口と尾とにある。その尾はへびに似ていて、それに頭があり、その頭で人に害を加えるのである。

ここにも蛇の記述があります。悪魔的な存在です。何と恐ろしい、何と暗闇に満ちた、おぞましい出来事なののでしょうか。どうして神様は、御使いにこの底知れぬところを開くようなことをお許しになられたのでしょうか。

この問いを胸に抱くとき、どうしてこの地上に災いがあり、戦いや争いや悲劇があるのか、神様がおられるのに、との問いを思い起こします。

20 これらの災害で殺されずに残った人々は、自分の手で造ったものについて、悔い改めようとせず、また悪霊のたぐいや、金・銀・銅・石・木で造られ、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を礼拝して、やめようとしなかった。

21 また、彼らは、その犯した殺人や、まじないや、不品行や、盗みを悔い改めようとしなかった。

二億のおぞましい悪魔的な騎兵。そしてさそりの尾を持つ悪魔的ないなぎ、しかしこの災いから辛うじて難を逃れた人たちはどうしたのでしょうか。彼らはまだ力なき偶像に救いを託していました。自分自身の心の向きを変えようとせず、悔い改めて道を修正して再出発するのではなくて、自分にとって好ましいものを自分の周りに集めていました。

このような力のない生き方と決別させるために神様はこれらの災いを与えておられるのではないのでしょうか。私たちには死のとげを、その効力と死の力を打ち破られた方がおられるのです。どうして私たちはいよいよ心を新たにして、この方のもとへと逃れることをためらうのでしょうか。子の救い主をお与えくださいました主なる神様の御名を心の底からあがめます。そして私たちはこの救いをお伝えしたいと願うのです。

1 コリント 15:50 兄弟たちよ。わたしはこの事を言うておく。肉と血とは神の国を継ぐことができないし、朽ちるものは朽ちないものを継ぐことがない。

15:51 ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。

15:52 というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。

15:53 なぜなら、この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになるからである。

15:54 この朽ちるものが朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るとき、聖書に書いてある言葉が成就するのである。

15:55 「死は勝利にのまれてしまった。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか」。

15:56 死のとげは罪である。罪の力は律法である。

15:57 しかし感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである。

15:58 だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。ラッパの音が増し加わるとともに恐ろしい災害が起こり、底なしの淵からいなごや騎兵や馬が出てきて人を苦しめます。どうしてこんな苦しみがといぶかる時、その刺し貫くような苦しみの中で主に目を上げるべき時が定められていたのだと気づくことが出来るように、私たちを導いてください。私たちはイエス様の贖いにより死に対して勝ち誇り、「死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか。」と言い得

る存在ですから、感謝いたします。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン